

# 答 申 書

平成23年12月  
常盤湖を考える市民委員会

常盤公園の白鳥類は、昭和 32 年にオランダの動物園から譲り受けて以来、本市のシンボルとして市民に愛され、親しまれてきました。しかしながら、今年 2 月に発生した高病原性鳥インフルエンザの感染拡大を防止するため、やむなく貴重な財産である白鳥類を失うこととなり、市民の多くが深い悲しみを受けました。

本委員会では、市民との意見交換会も開催し、専門家の委員も交えて幅広く議論してまいりましたが、環境省の「動物園等における飼養鳥に関する高病原性鳥インフルエンザへの対応指針」及びこれに基づき策定された「常盤公園高病原性鳥インフルエンザ対応マニュアル」を踏まえ、飼養環境を整えば、白鳥の復活を目指すという最終結論に至りました。

現在でも、高病原性鳥インフルエンザの感染リスクが高いことから、数年間は、その発生状況を注視するとともに、防鳥ネット等を整備した施設でのペリカンの飼養状況を検証し、専門家の意見も取り入れながら、感染リスクを最小限にできる白鳥の飼養方法を検討のうえ、白鳥を近い将来復活させることを要望します。

なお、白鳥を再び飼養するにあたっては、市民募金など市民と一体となった取組みの意見があったことを申し添えます。